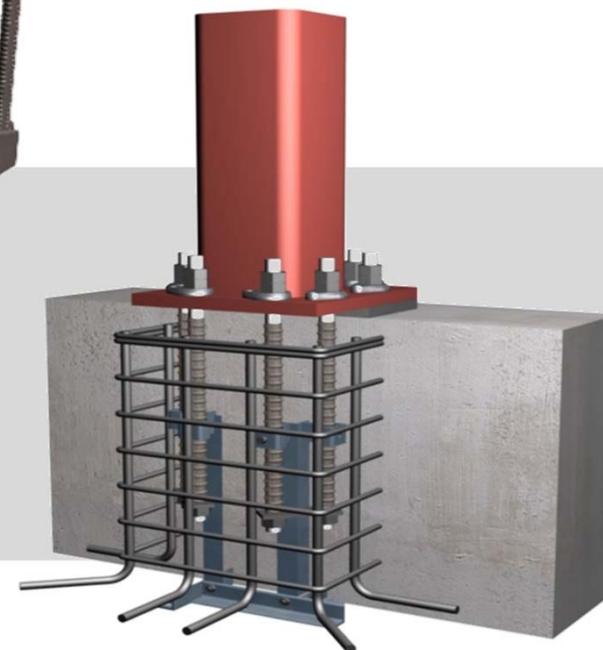


2017年12月期 決算説明会



クラウンパイルアンカー



ベースパックVシリーズ



本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみにより投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする為替レートの変動などが含まれます。

岡部グループの事業領域

多角化事業

主に、魚礁の製造販売、
北米における釣り用錘の製造
販売をしております。

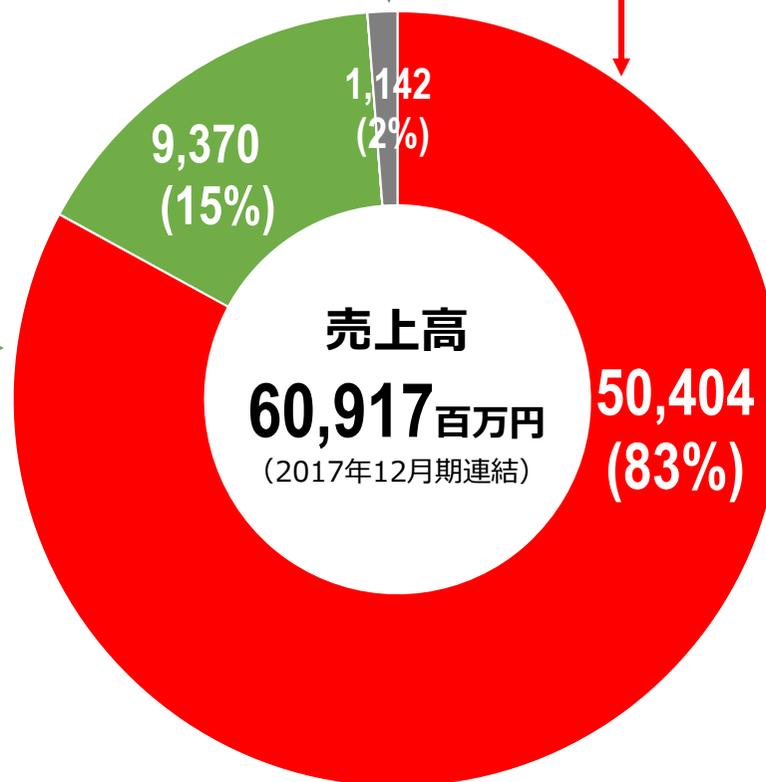
自動車関連製品事業

バッテリー端子の製造販売、
トラック等向けボルト・ナットの
販売を行っております。



建設関連製品事業

- 仮設・型枠製品
 - 土木製品
 - 構造機材製品
 - 建材商品（北米含む）
- より構成されております。



国内・海外売上比率

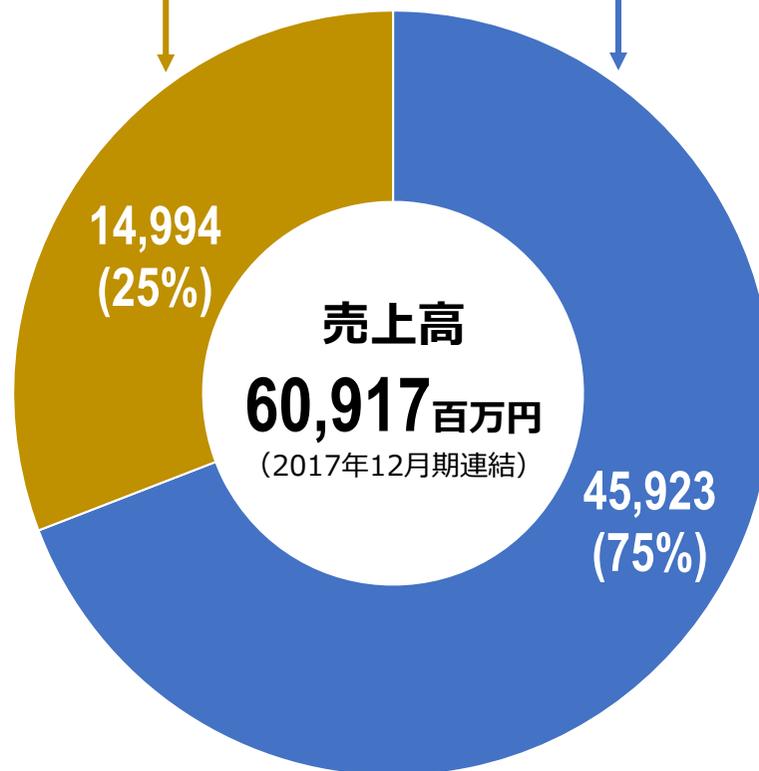
海外事業

- 建材商品販売
- 自動車関連製品事業から構成されています。



国内事業

- 建設関連製品事業等から構成されています。



※ホテル事業は2016年12月期に譲渡を完了しております。

本日のアジェンダ

I. 2017年12月期 通期連結業績概要

II. 来期以降の連結業績予想

III. 中期経営計画の実行施策について

I. 2017年12月期 通期連結業績概要

2017年連結業績状況サマリー

プラス要因

建設関連製品事業 (国内・北米)

- 構造機材・土木製品を中心に販売が好調
- OCM社の販売が引き続き伸張

自動車関連製品事業 (欧州)

- 欧州やその他地域向けの輸出による販売が好調

マイナス要因

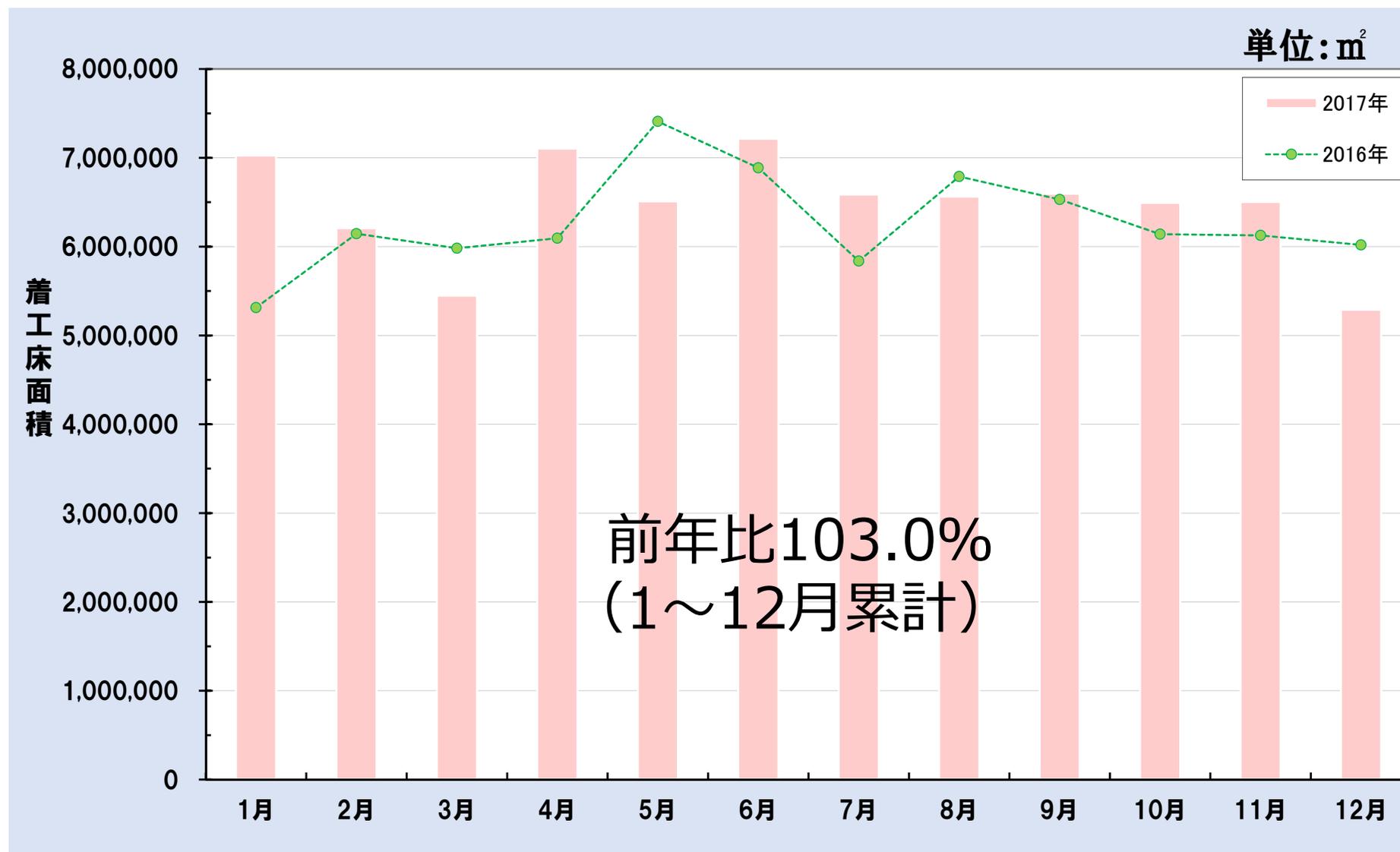
建設関連製品事業 (国内・北米)

- 当初の想定と比べ着工床面積の増加が緩やかだったこと
- 原材料(鋼材)価格の上昇

自動車関連製品事業 (米国・欧州)

- 原材料(鉛)価格の上昇
- 機械設備の老朽化に伴う関連費用の増加

2017年 建設着工床面積 推移



セグメント別・製品別売上高 【前期比】

(単位：百万円)

		2016 実績	2017 実績	増減額	増減率
製品別	仮設・型枠製品	7,093	7,013	△80	△1.1%
	土木製品	5,553	6,073	519	9.3%
	構造機材製品	18,342	19,751	1,409	7.7%
	建材商品（国内）	12,224	12,651	427	3.5%
	建材商品（海外）	4,496	4,915	418	9.3%
建設関連製品事業		47,711	50,404	2,693	5.6%
自動車関連製品事業		8,975	9,370	394	4.4%
ホテル事業		5,204	—	△5,204	△100.0%
多角化事業		1,299	1,142	△157	△12.1%
合計		63,190	60,917	△2,272	△3.6%

セグメント別営業利益【前期比】

(単位：百万円)

	2016 実績	2017 実績	増減額	増減率
建設関連製品事業	3,940	4,105	165	4.2%
自動車関連製品事業	1,021	761	△260	△25.5%
ホテル事業	501	—	△501	△100.0%
多角化事業	63	△22	△86	—%
合計	5,527	4,844	△682	△12.3%

連結業績概況 【前期比】

(単位：百万円)

	2016 実績	2017 実績	増減額	増減率
売上高	63,190	60,917	△2,272	△3.6%
営業利益	5,527	4,844	△682	△12.3%
(営業利益率)	8.7%	8.0%	—	—
経常利益	5,780	5,068	△712	△12.3%
当期純利益	7,861	3,485	△4,376	△55.7%

連結業績概況 【前期比】 (ホテル事業を除く)

(単位：百万円)

	2016 実績	2017 実績	増減額	増減率
売上高	57,984	60,917	2,933	5.1%
営業利益	5,025	4,844	△181	△3.6%
(営業利益率)	8.7%	8.0%	—	—
経常利益	5,243	5,068	△175	△3.3%

Ⅱ. 来期以降の連結業績予想

事業環境等の変化について

• 事業環境等の変化

建設関連製品事業

- 国内の建設着工が想定よりも緩やかだったこと
- 原材料(鋼材)価格上昇に対する価格転嫁が進まず

自動車関連製品事業

- 原材料(鉛)価格の上昇
- 設備の老朽化に伴う関連費用の増加



2018年度、2019年度の業績見通しを修正

NEXT100 業績の見通し（修正後）

中期業績の見通し（2019年）

▶ 売上高650億円、経常利益59億円

	実績		業績見通し	
	2016年12月期	2017年12月期	2018年12月期	2019年12月期
売上高 (百万円)	63,190	60,917	63,000	65,000
営業利益 (百万円)	5,527	4,844	5,300	5,800
経常利益 (百万円)	5,780	5,068	5,400	5,900
当期純利益 (百万円)	7,861	3,485	3,700	4,000
ROE (%)	15.7%	6.5%	6.6%	6.8%

2018年度の外部要因見通し

プラス要因

建設関連製品事業

- 首都圏を中心とした大規模再開発や「2020年東京オリンピック・パラリンピック」関連工事等により、建設投資は堅調に推移する見通し

懸念材料

建設関連製品事業

- 原材料(鋼材)価格の上昇

自動車関連製品事業

- 原材料(鉛)価格の上昇

アクションプラン

建設関連製品事業

- 鋼材価格上昇対策と適切な価格転嫁。
- 提案型営業の強化による需要の取込み。

自動車関連製品事業

- 生産設備の更新および効率化。
- 好調の欧州にて、引き続きシェア向上を図る。

2018年度通期連結業績予想

(単位：百万円)	2017 実績	2018 予想	増減額	増減率
売上高	60,917	63,000	2,082	3.4%
営業利益	4,844	5,300	455	9.4%
(営業利益率)	8.0%	8.4%	—	—
経常利益	5,068	5,400	331	6.6%
当期純利益	3,485	3,700	214	6.2%

2018年度通期セグメント別・製品別売上高予想

(単位：百万円)

		2017 実績	2018 予想	増減額	増減率
製品別	仮設・型枠製品	7,013	7,200	186	2.7%
	土木製品	6,073	6,300	226	3.7%
	構造機材製品	19,751	20,800	1,048	5.3%
	建材商品	12,651	12,700	48	0.4%
	建材商品（海外）	4,915	5,100	184	3.8%
建設関連製品事業		50,404	52,100	1,695	3.4%
自動車関連製品事業		9,370	9,600	229	2.5%
多角化事業		1,142	1,300	157	13.8%
合計		60,917	63,000	2,082	3.4%

2018年度通期セグメント別営業利益予想

(単位：百万円)

	2017 実績	2018 予想	増減額	増減率
建設関連製品事業	4,105	4,300	194	4.7%
自動車関連製品事業	761	900	138	18.2%
多角化事業	△22	100	122	—
合計	4,844	5,300	455	9.4%

株主還元方針 -配当政策について-

	2015	2016	2017	2018 (予想)
1株当たり 当期純利益	81.62円	155.10円	69.95円	74.26円
1株当たり 配当金額	24.00円	24.00円	30.00円	26.00円
連結配当性向	29.4%	15.5%	42.9%	35.0%

※2017年の1株当たり配当金額には、記念配当の6円を含んでおります。

資産収益性について

- ・財務の健全性を維持しつつ、持続的な向上を図ります

(単位：百万円)	2015	2016	2017	2018 (予想)
当期純利益	4,234	7,861	3,485	3,700
純資産	47,877	50,003	53,828	56,232
R O E	8.8%	15.7%	6.5%	6.6%

※純資産の数字は期中平均を使用しております。

Ⅲ. 中期経営計画の実行施策について

中期経営計画 2017-2019

NEXT100

~Exciting Future~

STRATEGY

3つの柱

コア事業への
経営資源の集中

新製品開発強化

グローバル展開推進



okabe

建設関連製品事業

自動車関連製品事業

多角化事業

VALUE & STRUCTURE

Strengthen

経営基盤の強化

VISION

Global Maker

安全・安心の提供を通じて
社会に貢献するグローバル・メーカー

技術力

×

ワクワク

経営基盤 ~4つの強化策

- 1 創業期以来の社是の再確認
- 2 多様な人材獲得・育成(人材のグローバル化とダイバーシティ)
- 3 IT化のさらなる推進による職場環境の改善と業務効率化
- 4 ガバナンス強化

NEXT100 ビジョン実現のための3つの柱となる施策

1 コア事業への経営資源の集中

コア事業（建設関連製品・自動車関連製品）へ経営資源を集中します。

2 新製品開発強化

建設資材・自動車部品（バッテリー端子等）・海洋の各事業において成長領域の製品開発に取り組みます。

将来的に売上高50億円を新たに生み出す製品を、この3年間で市場投入してまいります。

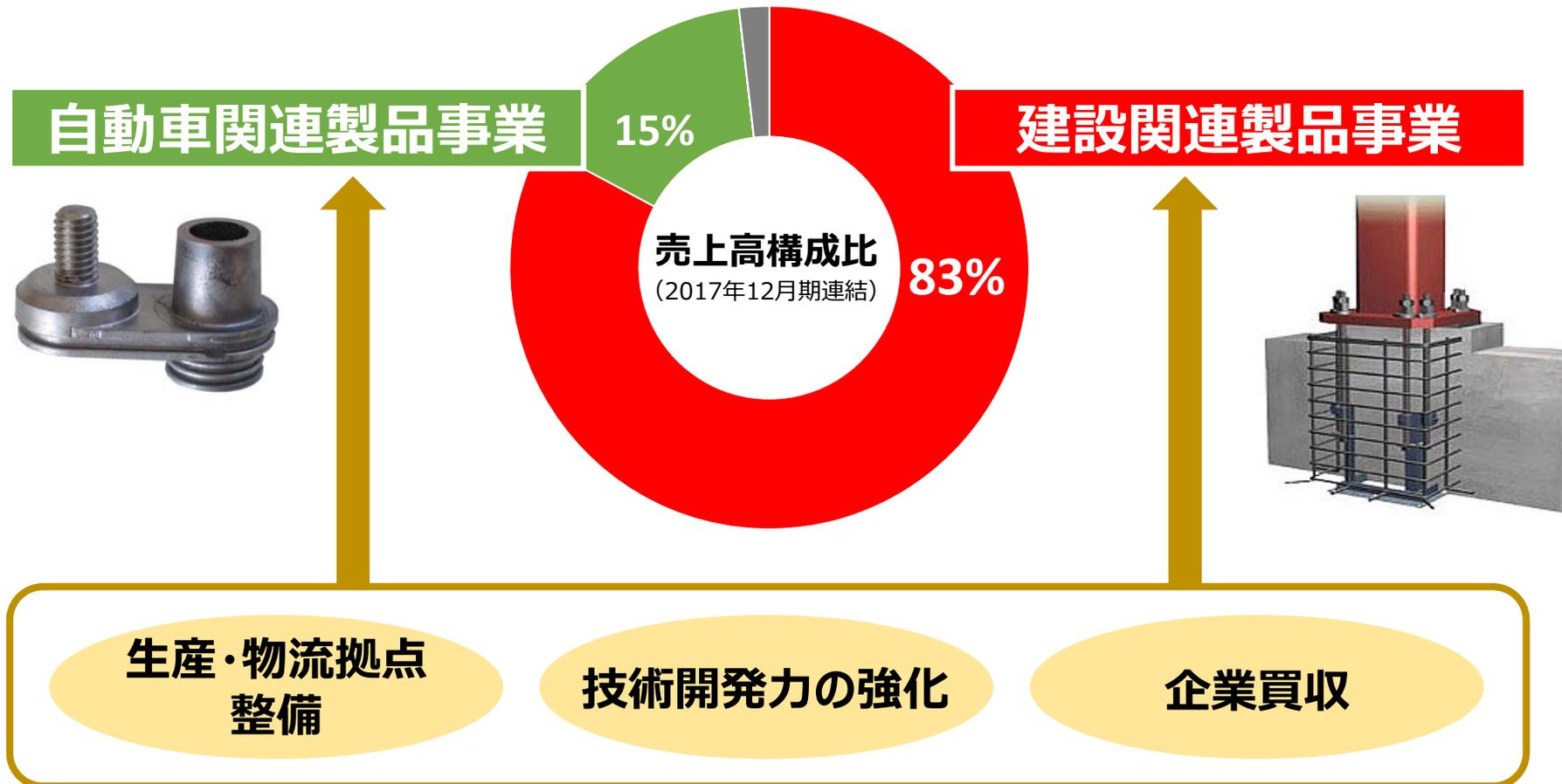
3 グローバル展開推進

建設資材・自動車部品・海洋の各事業において海外展開をさらに積極的に推進します。
経常利益の海外比率40%を目指してまいります。

NEXT100 投資方針について

今後の
投資方針

コア事業へ集中投資



NEXT100 進捗状況

建設関連製品事業

- (株)富士ボルト製作所の発行済全株式を取得（完了）
- 岡部総合実験センターの建設（完了）
- 久喜工場の拠点整備（2018年11月完了予定）
- 北米の物流拠点整備（2018年3月完了予定）

自動車関連製品事業

- 米国・欧州・中国における生産設備の更新（一部実施済）

(株)富士ボルト製作所の概要



連結売上高：25億7千7百万円（2016年2月期実績）

グループ会社：(株)富士機材、フジボルトインドネシア

主力製品：F D グリップ



主力工場：インドネシア工場

(株)富士ボルト製作所買収の目的①



買収の目的

1 市場・製品ラインアップの補完性

モルタルタイプ
製品の獲得



土木市場での高シェア



岡部が保有していない製品・シェアが低い市場を補完

シナジー①

市場・製品ラインアップを補完



(株)富士ボルト製作所買収の目的②



買収の目的

2 東南アジアへの拠点進出



岡部が未進出である東南アジア拠点を獲得（インドネシア工場）

シナジー② 東南アジア地域進出の実現



(株)富士ボルト製作所買収の目的③



買収の目的

3 技術力の獲得

高い製造技術



高い開発力



岡部・富士ボルト製作所が保有するノウハウを相互活用

シナジー③ 両社の製造・技術開発力強化



総合実験センターについて



総合実験センター（2017年12月15日竣工）

総合実験センターについて

設備の特徴

業界トップクラスの設備



動的・静的試験設備



1000KN
長柱試験機



3000KN
万能試験機

- ・新分野（制震・免震）製品の実験強化
- ・既存製品の品質向上

狙い

1

50億円の売上増加を目指す

総合実験センターについて

動的試験設備



- 耐震・制震・免震製品の実験が可能

総合実験センターについて

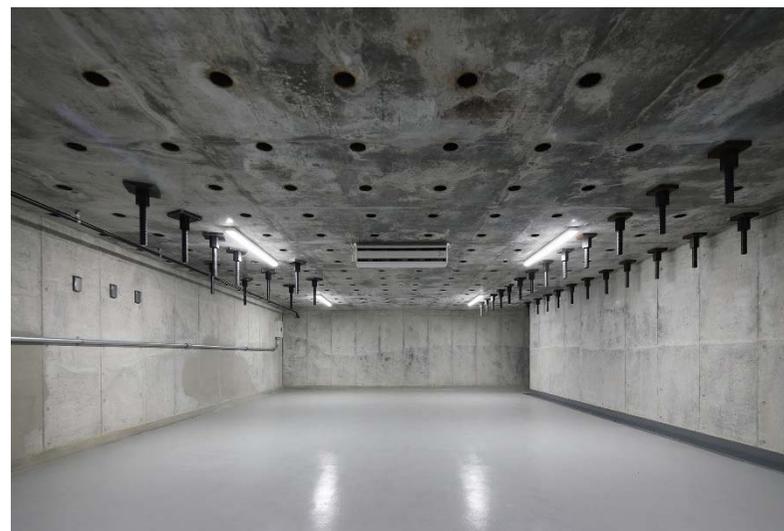
2軸載加装置



- 実験スペースの拡大により、製品開発期間が短縮

反力壁

反力床

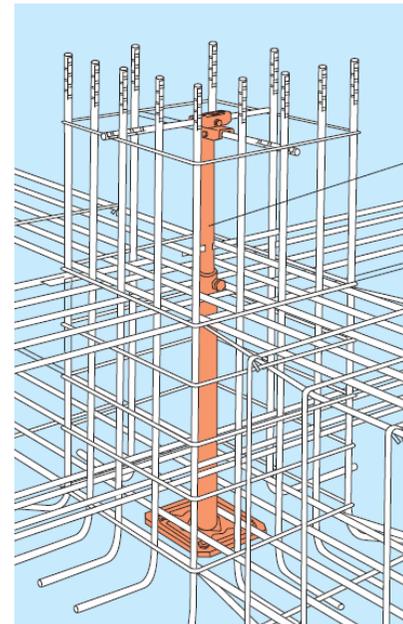


総合実験センターについて

1000KN長柱試験機



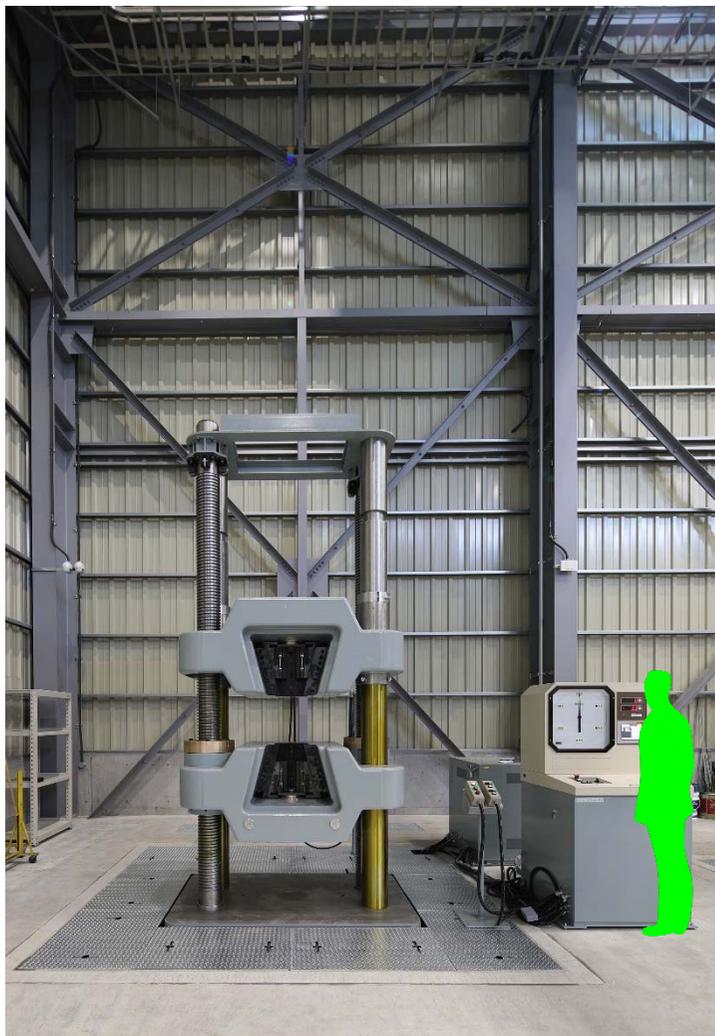
- 首都圏にて増加する大型の建設現場に対応する仮設製品(ベースマン、サポート等)の実験が可能



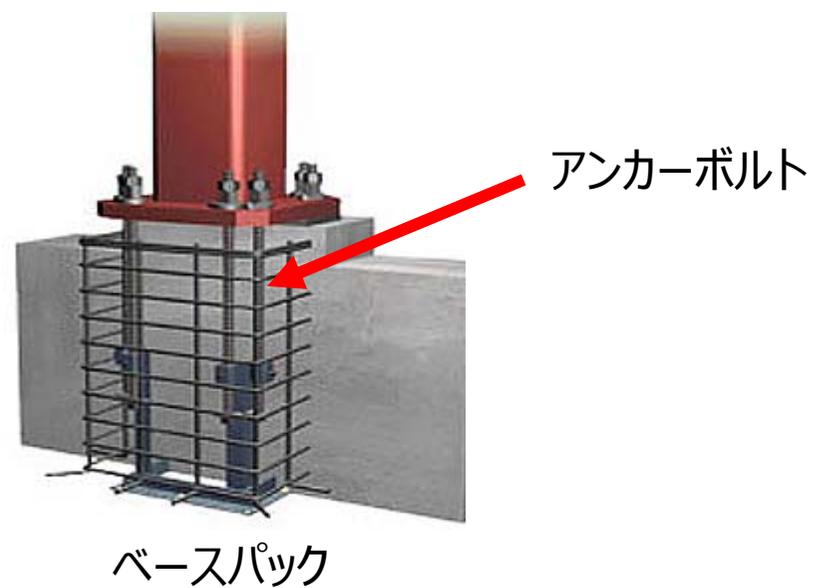
ベースマン

総合実験センターについて

3000KN万能試験機



- 太径のアンカーボルト(大型のベースパックの部材)等の実験が可能



総合実験センターについて

竣工式での公開実験



- ・大学等との人材交流の場とする
- ・社内の人材育成の教材とする

狙い ② 優秀な人材の育成・確保を図る

北米の物流拠点の整備（2018年3月竣工予定）



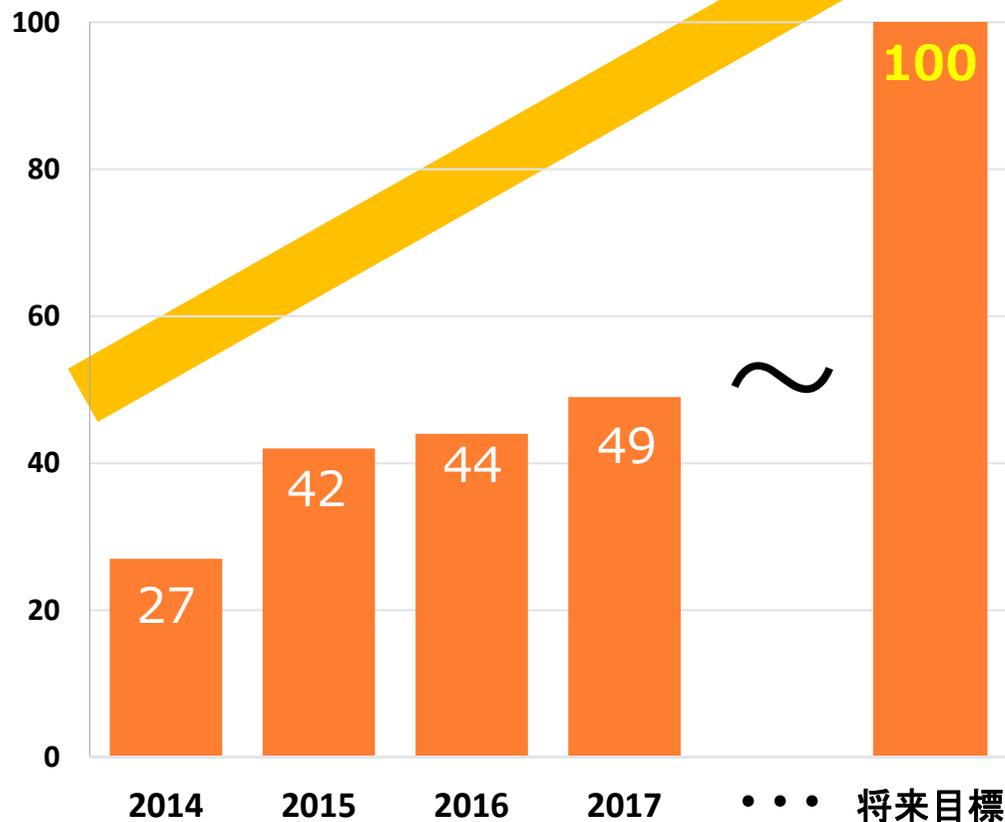
北米にて建設中のO C M社物流拠点

北米の物流拠点の整備（2018年3月竣工予定）

将来的に売上100億円を目指す



OCM 売上高（億円）



- 将来的には、生産機能も付加し、メーカーとしての事業展開を図る



自動車関連製品事業における生産設備更新について

米国

老朽化した設備の更新
生産ラインの合理化



生産の効率化

欧州・中国

新規の生産設備の導入



生産能力の整備・拡大

収益力の強化

経営基盤の強化策について

経営基盤～4つの強化策

- ① 創業期以来の社是の再確認
- ② 多様な人材獲得・育成
(人材のグローバル化とダイバーシティ)
- ③ IT化のさらなる推進による職場環境の改善と業務効率化
- ④ ガバナンス強化

中期経営計画 2017-2019
NEXT100
~Exciting Future~

取りよう! 有給休暇
月1日以上取得!

帰ろう! ノー残業デーの 定時退社

働き方改革に向けた3つの施策

- 1 業務の棚卸し・負荷分散の推進**
■ 非効率な業務や価値の低い業務を削減
■ 長時間労働を1人に集中させない
- 2 NO MORE 自主残業**
■ 残業は上司の指示で行うもの
■ 残業削減は上司の義務
- 3 1/8会議の実施**
■ 時間・人数・資料を1/2にして効率化
(1/2×1/2×1/2=1/8)

岡部もやります。

従業員のための

「働き方改革」推進中!



質疑応答

参考資料（E S G資料）

社会の課題とOKABEの事業

